

石仏並ぶ高澤古道

石仏の由来

往時、草創の頃から、美濃、郡上、武芸川方面からの参詣者は県道美濃・川辺線から別れて、ここから参詣道(高澤古道)を利用したもので標高350mほどの高澤山へ向かい尾根伝いに本堂まで、およそ2キロのこの山道を歩きました。

石仏は美濃市口野々地区から見坂峠に続く山中の道々に建てられている。昔は高澤詣での人々が歩いたこの道は、時代が移り県道80号線が整備されて車道となり石仏は沿道脇へ丁重に移され、道路脇に第1番～第13番の石仏が現在も建つ。(第9番だけは旧道を入っていった所にある)また第14番以降は古道へと続いている。

石仏は文化年間(1805～1817年)～安政年間(1856～1859年)にかけて、美濃市口野々に住まれた庄屋さんが若くして他界した我が娘の死をたいそう悲しまれ、その供養のために西国三十三霊場を巡礼し建立されたもの。(末裔の方のお話)

見坂峠から高澤古道に入ると飯尾宗祇(いいおそうぎ)の句碑がある。この句碑から40mほど参詣道を進むと左手に第14番の石仏が建つ。石仏は高澤観音本殿裏にある御手洗の岩場まで続く。最終の第33番まで一町(約109m)ごとに建っており、今も高澤詣での人たちの道中の安全をやさしく見守っていて下さる。まさに古道ロマンの風格が漂う道のりです。

石仏には『為 靈方智照信女 菩提』 口野々 山田と刻まれています。

(石仏に刻された年号から、今から遡ること二百数十年前の文化年間～安政の時代にかけ奉られたことがわかります)

